

### 5-3 東海地方における地震活動の変化

#### On the Seismic Activity in the Tokai District

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division  
Japan Meteorological Agency

第1図は、最近5ヵ年間における東海地方の地震活動の状況を示したものである。

図に示したA・B・Cの3領域のうち、B領域では、1988年後半から御前崎南方沖のM3.3(9月4日)を除いて、M3クラス以上の地震発生がみられなかったが、1989年7月以降、これまでに9個の地震\*が発生した。しかし、これらは一定の範囲に限られている等、B領域の留意すべきパターン解消とはなりえないとみられる。今後も引き続き、活動の変化には十分注意していく必要がある。

A及びC領域の活動状況については、若干の変化は認められるが、B領域のような特別な変化は示されていない。

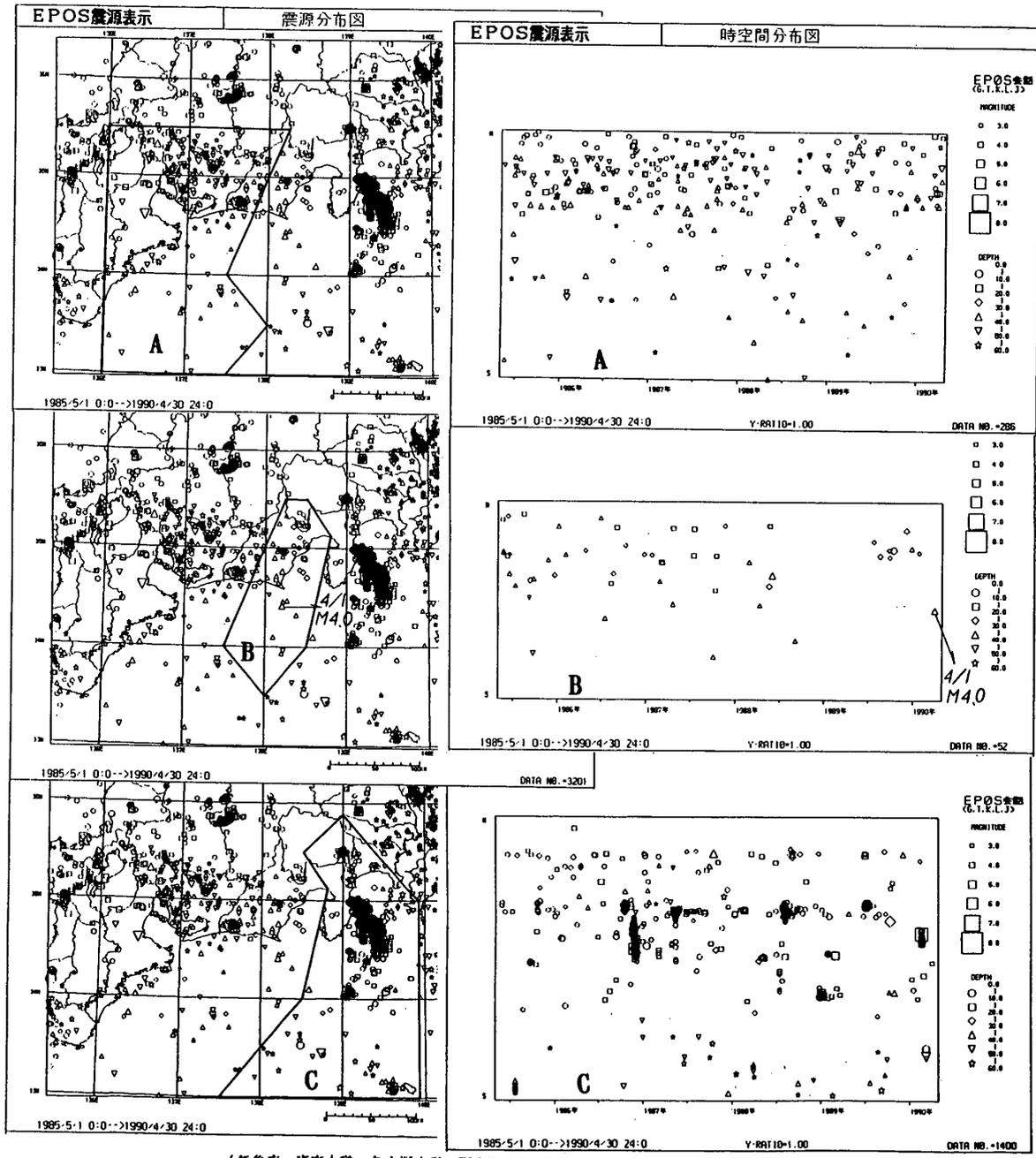
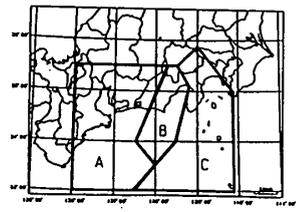
第2図は、最近1ヵ年間にトラフ近傍で発生した主な地震(M3.5以上)のメカニズム解である。④は、ごく最近B領域で発生したM4.0(第1図①・②の4月1日M4.0)の地震のもので、南北圧縮の横ずれを示している。駿河トラフと南海トラフの折れ曲がるところで発生した③ときわめて類似的である。活動監視のための参考図である。

注：\*の地震は、'89年7月23日10時26分のM3.1(深さ21.9km)・8月19日13時45分のM3.7<sup>(2)</sup>(同23.9km)  
・9月24日02時55分のM3.0(同28.1km)・9月28日07時06分のM3.1(同25.5km)・10月14日21時57分のM3.9<sup>(2)</sup>(同3.0km)・12月5日10時33分のM3.8<sup>(1)</sup>(同25.0km)・12月26日21時53分のM3.2(同36.7km)  
・'90年1月27日00時20分のM3.0(同22.2km)・4月1日16時43分のM4.0(同38km)。M値に( )付記は有感地震で、数字は最大震度。

①

1985. 5. 1  
 ↓  
 1990. 4. 30  
 M 3.0 —  
 DEP. 0.0-60km

②



(気象庁・東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

ザンティ: '90年2月1日

第1図 東海地方のA・B・C領域における地震活動

(1985年5月1日~1990年4月30日: M3.0以上)

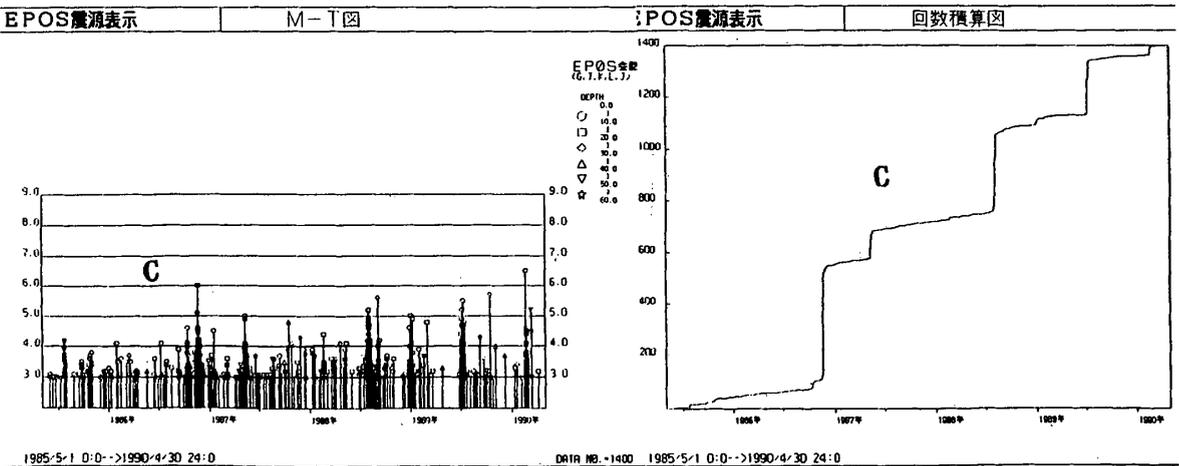
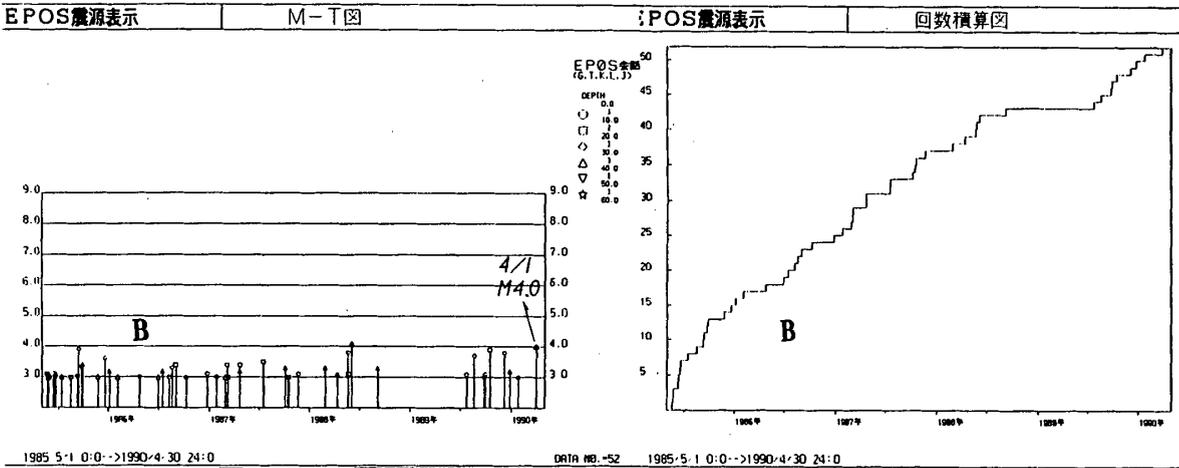
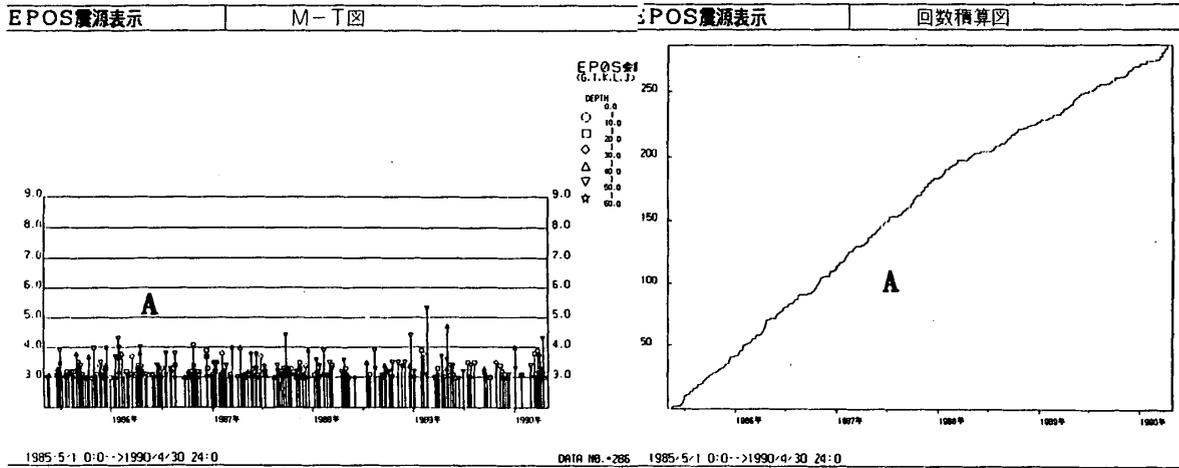
①: 震央分布, ②: 時空間分布, ③: M-T図, ④: 地震回数積算図

Fig. 1 Seismic activity in regions A, B and C, Tokai District (May 1, 1985 - Apr. 30, 1990:  $M \geq 3.0$ ).

①: Epicentral distribution, ②: Space-time plot, ③: M-T diagram, ④: Cumulative number of earthquakes.

③

④

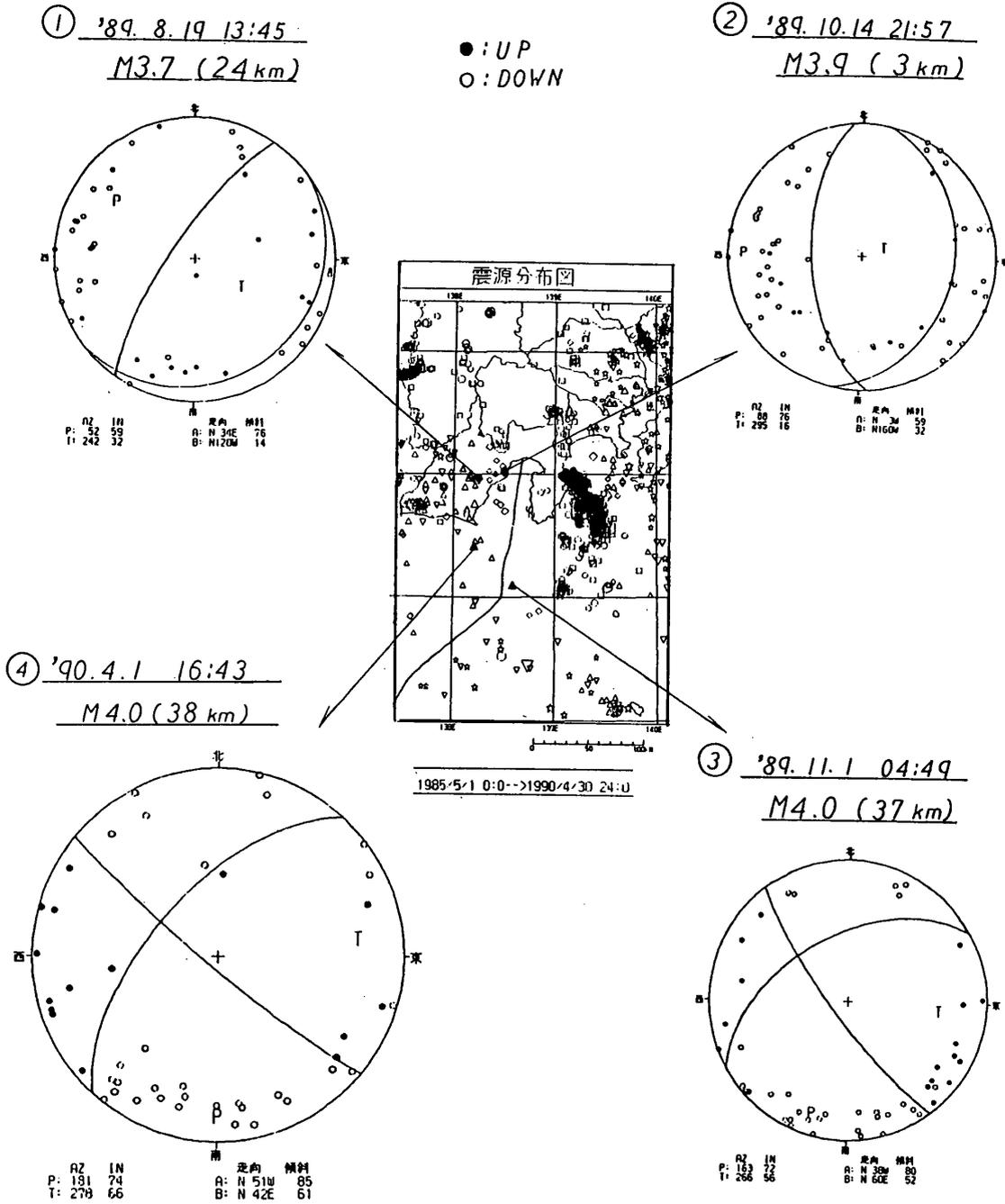


第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)

# ＝メカニズム解＝

(上半球投影)



第2図 地震のメカニズム解 (上半球投影)

①: 1989年8月19日・M3.7, ②: 1989年10月14日・M3.9, ③: 1989年11月1日・M4.0, ④: 1990年4月1日・M4.0 ●: 押し, ○: 引き

Fig. 2 Focal mechanism solutions (Projected on the upper hemisphere).

①: Aug. 19, 1989, M3.7, ②: Oct. 14, 1989, M3.9, ③: Nov. 1, 1989, M4.0, ④: Apr. 1, 1990, M4.0.  
●: up, ○: down.